

東洋学園大学人間科学部スポーツ健康コースで スポーツパフォーマンスの専門家・佐藤公威氏による特別講演 ～テーマは「野球の動きに関連するアセスメントとその重要性」～ 日本語と英語を交えスポーツを通じた英語教育も実施

東洋学園大学(学校法人東洋学園 本部:文京区本郷 理事長:愛知太郎)の人間科学部スポーツ健康コースにおいて、Peak Force International Inc. / CEO の佐藤公威氏を招待した特別講演会「野球の動きに関連するアセスメントとその重要性」を学生向けに、1月24日(金)に実施します。第一部(講義)は15:30～16:30、第二部(実技)は16:45～18:15となります。

本件は外部の方の参加は受け付けておりません。取材を希望されるメディアの方は事前にご連絡をいただけますと幸いです。

国際的に活躍する佐藤公威氏のプロフィール



佐藤公威氏は、東テネシー州立大学の学術教授として8年間を過ごし、Peak Force(ピークフォース)のCEOに就任。スポーツパフォーマンス、健康とフィットネス、テクノロジーに関するトレーニング、教育、コンサルティングサービスを展開。ピークフォースでは、中国オリンピックチームやその他のチームや組織に英語でサービスを提供し、アジアの言語能力を高めています。

国際スポーツバイオメカニクス学会(ISBS)の理事も務め、2014年に開催されたISBS会議の組織委員会の委員長を務めました。2015年、彼はISBSから名誉あるHans Gros Emerging Researcher賞を受賞。

科学的根拠に基づいたトレーニング機関を率いる佐藤氏による講演テーマは「野球」

野球というスポーツは、1)投げる、2)打つ、3)捕る、4)走る、という動作の中に、いろいろな神経や筋肉を使ってとても複雑な動きをします。

その中でも体の動きにリミットがあればそれを補う動き(compensation)が生じて、けがや痛みになるケースが多数見られます。そこで必要な知識として生物力学(Biomechanics)を基にしたアセスメントを進めます。

特にこのアセスメントで重視しているのは肩と肩甲骨、背筋の柔軟性やバランス、そして股関節の動き方。“それができるから早い球が投げられる”ではなく、“これができないと野球に関連するこの動きができない”という発想で紹介します。東洋学園大学のモットーでもある“国際人を育てる”という意味合いも込めて、日本語と英語を交えながら(スポーツを通しての英語教育)というコンセプトも使いながら情報提供します。

* 本リリースに関するお問い合わせ、取材のお申し込み先 *

東洋学園大学 広報室 (担当: 清水・中村・岩淵)

電話 03-3811-1783 FAX 03-3811-5176 e-mail:koho@of.tyg.jp http://www.tyg.jp/